

令和5年度の加曽利貝塚発掘調査について

1 概要

令和2(2020)年度からの3か年で実施してきた南貝塚中央窪地の発掘調査(第16次調査)が令和4(2022)年度で完了したことから、令和4年3月に取りまとめた「特別史跡加曽利貝塚発掘調査計画」(参考資料)に基づき、新たな地点の発掘調査に着手する。

なお、令和5(2023)年度は新博物館整備に伴う発掘調査をはじめ、各種開発のための発掘調査が数多く予定されており、調査の実施時期や期間については、これらの事業との調整が必要である。

2 史跡の内容確認を目的とした北貝塚の発掘調査(第17次調査)

(1)調査予定地点 第1次調査第2地点を含む範囲(議題資料2の1)

(2)調査目的

①過去の調査区の位置確認

昭和37(1962)年に発掘された第1次調査第2地点では、縄文時代後期加曽利B式期の竪穴住居跡や5体の埋葬人骨が確認されている。正確な位置が把握できていないことから、その位置を確認する。

②遺構の確認

北貝塚の過去の調査では、帰属時期のわからない遺構が多く、正確な集落像を描くことができていない。とくに第1次調査第2地点では、埋葬人骨と遺構の関係が捉えられていない。北貝塚の集落構造を明らかにするため、貝堤内側を中心に遺構の確認を行う。

③貝層の分布と時期の確認

従来、北貝塚は縄文時代中期に属する貝塚として知られている。しかし、第1次調査では縄文時代後期に帰属すると思われる竪穴住居跡が検出されており、貝層の形成時期が後期に及ぶ可能性が高い。そのため、貝層の分布位置を正確に把握し、あわせて貝層形成の変遷を確認するための判断材料を得る。

(3)調査面積 約1,000㎡ ※他の開発目的の発掘調査との調整により増減有り

(4)調査期間 2か月程度 令和5(2023)年10～11月予定

第17次調査は令和5(2023)年度から令和7(2025)年度の3か年計画で実施する。令和5(2023)年度は表土掘削と遺構の平面確認を中心にを行い、今後の調査計画を立案する。

3 保存を目的とした低地部分の調査

(1)調査予定地点 加曽利貝塚南東部の低地(議題資料2の2)

(2)調査目的

①遺物包含層、遺構の遺存状況の確認

東側傾斜面を下った坂月川の低地部分(通称「舟着き場」)は、舟着き場や水場遺構として利として利用された可能性がある。また、台地上では保存されない木製品や植物遺体などの出土が期待され、各種自然科学分析を実施すれば、加曽利貝塚をとりまく自然環境を明らかにすることができる。縄文時代の包含層の存在が確認できた場合、大きな課題となっている植物資源の利用について分析・研究が進むことが期待され、その成果を史跡の整備や活用に活かすことができる。

今後の調査計画を構築するため、令和5(2023)年度と令和6(2024)年度の2か年で、低地の堆積状況や縄文時代の遺物包含層、遺構の遺存状況を確認する予備的な発掘調査を実施する。

(3)調査面積 約20㎡×3か所程度

(4)調査期間 1か月半程度 令和6(2024)年1月～2月予定

4 関連調査(新博物館整備に伴う発掘調査)

(1)柳沢遺跡本調査(議題資料2の3) 令和4年度確認調査実施

ア 調査目的 新博物館整備に伴う工事用車両進入路等整備

イ 調査面積 約2,500㎡(本調査対象範囲は全体3,600㎡あり、残りは令和6年度に実施)

ウ 調査期間 4か月程度 令和5(2023)年10月～令和6(2024)年1月予定

(2)玄藤遺跡確認調査(議題資料2の4)

ア 調査目的 新博物館駐車場整備

イ 調査面積 約440㎡/約4,400㎡

ウ 調査期間 1か月程度 令和5(2023)年9月予定